



# 校長室だより

校長 山崎 聡子

## 道徳教育

「10匹のモンシロチョウがかえったんだ。空に放したんだよ。」と嬉しそうに話してくれる3年生。何人かと話をしている中で、今はキアゲハを育てているというので、「生き物がたくさんいるんだね。」と言うと、「見に来る？」ときらきらした目で誘いがありました。3年生についていくと、虫かごに駆け寄り、「さなぎからかえった。」と食い入るようにキアゲハを見つめる子供たち。

「トマトが20個もできたよ。」と自分のトマトを優しく触りながら、数を数えていた2年生。「どこにあるの？」と聴くと、指をさしながら嬉しそうな表情をうかべて教えてくれます。その話をそばで聞いていた友達が、どこにあるのかと興味津々に見入ってくる姿もすてきな姿です。

「朝顔の花の蕾がでてきた。」と嬉しそうに話してくれる1年生。「ここにも、ここにもでてきた。」と水やりをしながら、成長している朝顔に気持ちを寄せています。

学校の中で、もちろん外でも、子供たちは多くの生き物に出あっていることと思いますが、生き物に触れることが、子供たちとの心を大きく動かしています。改めて生き物の力は偉大であると感じます。

道徳が教科化され、週1時間の授業の中で内容項目の学習をしています。1・2年生は19項目、3・4年生は20項目、5・6年生は22項目の内容について道徳科の授業として学習をし、道徳性を養うことを目標として取り組んでいます。子供たちの道徳性は週1時間の道徳科の授業を要として、教育活動全体を

通して道徳教育を行い、その中で養っていくものとされています。様々な場面で、道徳科で学習した内容項目を意図的に繋げて子供たちへ返していくことで、道徳性を養っていくことが大切なことであると言われています。例えば、生き物に触れる子供たちに、「小さな生き物も一生懸命、生きていますね。」「お水をもらえて嬉しいと思うよ。」等、道徳科の授業で扱う内容項目「生命の尊さ」を意識しながら、子供たちに声をかけていくことが、子供たちの心に種まいたり、花を開かせていくことに繋がると考えます。

各教科等の授業や日常生活の出来事の中で道徳科の内容項目を意識した働きかけを行うことを積み上げながら、子供たちの道徳性を養っていきたいと思います。

## 答えは子供の中にある

先日、友達と喧嘩をしたから教室にもどりたいという子供がいたので、校長室で少し勉強をしながら、話を聴いていくと、「本当は、みんなと仲良くしたいんだ。」と素直な思いを話してくれました。心の奥には、より良く生きたいという思いがあり、どうしたらいいのかは、実は子供自身が一番わかっているのではないかと思います。1年生で6年間、6年生で12年間を精一杯生きている子供たち。成長の過程の中で、上手に自分を表現することができず、時にみんなから誤解されるような態度をとってしまう子供たち自身が一番困っているのだらうと思います。子供の困り感に寄り添いながら、心の奥にある内なる声に、子供自身で気付けるように関わっていきたいと思います。